

2. 活動報告（注1）

番号	5					
テーマ	らしさの探求（音）					
実施回数・期間 （注2）	令和7年4月～令和8年3月 年間通して					
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
	人	人	11人	人	人	人
活動内容 （注3）	様々な音に反応して伝えてくれる子どもたちとより「音」というものを意識して探求してみようと日々の保育の中で取り組んだ。詳しくは報告書にて。					
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。					
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 音の探求の中で、友達の聞こえた音の表現に共感したり、自分が聞こえた音を表現したり一人の音、たくさんの人数での音等、意識できるよう封した。					
	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。					
	※記録をどのように行ったか 主に写真と文章で行った。					
	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。					
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 音に関する表現を認めることで、こうやったら違う音になるかも、場所が違うとどうだろう、こんな時にも音が聞こえた等発見と興味ワクワクを見逃さないようかかわった。					
	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。					
	※振り返りの実施方法 その日に感じたことを伝えあい、クラス会議で子どもの育ちや、改善点など具体的な話をし、報告にまとめた。					
	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。					
	※教諭や保護者等への共有方法 掲示板に報告書を掲示し周知をした。					
次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。						
※継続的な実施のための工夫 子どもの育ちを振り返ることにより、次にすべきことが見えてくるが多かった。振り返りを丁寧に行うことで新たな問いや、環境設定につながった。						

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】

らしさの探求一音(様々な自然や素材の音に触れる)

【問いを考える】

新聞紙や水からどんな音がするかな?

どんな音が聞こえるかな?

2. 活動スケジュール

〈 2歳児 11名 〉

令和7年6月～令和8年3月

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

新聞紙、水遊びに使う玩具など子どもたちの興味関心に応じた様々な素材を用意する。

【探究活動の内容】

感触遊びとして提供した新聞紙遊びから、「音」に関心を持つ子がみられたことをきっかけに、「音」について探索活動をおこなっていく。新聞紙を破く音から新聞紙を丸めて叩く音、叩くものや力の加減によってなる音の違いを感じる。また水遊びを通して水にも音があることに気づくなど「音」そのものに興味や関心を持つ。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

6.7月:新聞紙を使った感触遊びを実施。新聞紙をちぎる感触を楽しむ中で、子どもたちから「(新聞紙が)びりびりって言った」と「音」を言葉にする姿がみられた。その後も「どんな音がするか確かめてみる」と音遊びに発展し「音」に意識を向けながら遊ぶ姿がみられた。後日筒状に丸めた新聞紙を渡すと「ドアと机で音が違うよ」と音の違いを感じながら音を出したり、「こんなに高いところも音がするよ」と背伸びしながら音を出したりと発見を嬉しそうに教えてくれる姿がみられた。

7.8.9月:水遊びを実施。おままごと用の玩具や空き容器を使って自由に水遊びを行う。遊びの中で上から下へと水を流し「音」に耳を澄ませている様子がみられたため、「どんな音がしたかな?」と問いかけると「ぼたぼた」「じゃばじゃば」など、それぞれに「音」を表現してくれた。その後も音を確認するようにして遊ぶ姿がみられた。



5. 振り返り

新聞紙をちぎる遊びから自然と子どもたちが遊びの中で「音」に意識を向け、「音」を楽しんでいる姿がみられたため、新聞紙の形を変えて子どもたちに提供すると、力の強弱や物によって出る音が違うことに気づく「音の発見遊び」に発展した。いろいろな「音」を探索する子どもたちは夏の水遊びの中で、冷たさや水の感触を楽しむだけでなく、水が落ちる音を言葉で表現し、子どもたち同士で「音」を確認合いながら遊ぶ姿がみられた。今後も様々な素材を用意して音の比較や音を鳴らすことそのものにも興味を持てるような活動につなげていきたい。季節がよく戸外活動ができるようになれば、さらに自然の音に触れる機会を増やし子どもたちの探求を深めていきたい。

1. 活動のテーマ、問いを考える

【テーマ】

らしさの探求一音(様々な自然や素材の音に触れる)

【問いを考える】

自然の中でどんな音が聞こえるかな?

楽器ってどんな音がするのかな?

楽器を使ってどんなことができるかな?

2. 活動スケジュール

〈 2歳児 11名 〉

令和7年6月～令和8年3月

3. 環境設定と探究活動の内容

【環境設定】

自然物(落ち葉やどんぐりなど)やお散歩バック、缶、空き容器、楽器など子どもたちの興味関心に応じた様々な素材を用意する

【探究活動の内容】

音に興味を持った2歳児。水の音だけでなく、自然の中にはどんな「音」があるのか耳を澄ませて感じてみる。さらに楽器に触れることで、「音」に興味関心を高めながら、友だちと一緒に「音」を奏でることを楽しむ。

4. 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

10.11月:公園で落ち葉やどんぐりを見つけ、お散歩バックに夢中になって詰め込む子どもたち。園に戻り、保育者が空き缶や空き容器を用意すると「こっちはカンカンっていうけどこっちはなんか音が違う」と同じどんぐりでも容器によって音が違うことに子どもたちが気付いた。また、容器に入れるどんぐりの個数を増やして音を比べたり、容器を上の方にあげて鳴らすと音が小さく聞こえ、下の方で鳴らすと大きく聞こえるのはどうしてだろうと考えたりする姿がみられた。

12月:公園で遊ぶ子どもたちに「自然の中でどんな音がきこえるかな?」と問いかけると、鳥の鳴き声に気がついて「ぴーぴーって鳴いている」と言葉にする姿がみられた。「どんな風に鳴いていると思う?」と尋ねると写真のようなポーズをして「こういう格好でぴーっていうの」と話してくれた。

1月:どんぐりを使って制作したマラカスを使い音遊びを楽しんでいる子どもたちに、様々な楽器に触れる機会を持つ。「こっちとこっちで音が違う」と楽器の違いによって音が違うことや「強くなるとこんな音」「優しくなるとこんな音」と力の強弱で音が変わることに気づき、夢中になって「音」を楽しむ姿がみられた。その後「いっしょにやろう」と友だちと楽器から出る「音」を合わせることを楽しんだり、友だちと歌いながら楽器をならして笑いあったり、子どもたちが友だちと一緒に遊びを発展させて「音」の探求をしている姿がみられた。



5. 振り返り

戸外活動に出かけられる季節となったことで、どんぐり、落ち葉といった自然物に触れながら、自然の中でさまざまな「音」を感じることができた。収集したどんぐりを使ったマラカス制作では、どんぐりを入れる個数や形、容器の種類によって音が違うことに気づき、自分の気に入った音が出る自分だけのマラカスを制作し「音」を楽しむ姿がみられた。また、玩具ではあるが、本物に近い楽器に触れた子どもたちはさらに「音」に興味を持ち、楽器の種類や力の強弱による「音」の違いに気づいたり、友だちと一緒に「音」を奏でることを楽しんだりして、「音」に意識を向けて遊ぶ姿がみられた。引き続き「音」の探求が続けられるよう、環境を整え、子どもたちがわくわくするような機会を提供していきたい。